



第3回 かさま狐の嫁入り



『むかしむかし、笠間盆地の東の方に大きな立ち木がうっそうとしげった山がありました。この山には、「白いきじ」と「白いきつね」と「白いしか」が仲良く住んでいました。この三びきは神様のお使いで、この山を守っている大変めでたい動物です。そこで、この山をだれ言うことなく、三びきの白い動物がすんでいることから「三白山」とよぶようになりました。』

この一節は、笠間の民話で紹介されている「佐白山」の地名のおこりで、この中に出てくる一匹の狐が秋の収穫のお礼に山へ帰るとき、狐の嫁入りが行われると言われています。

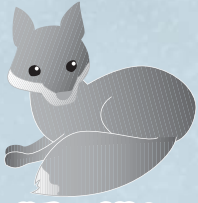
10月16日に行われた「かさま狐の嫁入りパレード」は、この民話を再現したもので公募により選ばれた花婿と花嫁、参列者が狐のメイクをして笠間稲荷門前通り商店街を練り歩きました。紋付はかまの花婿と真っ赤な色内掛けの花嫁が山車の前面中央に座り、お囃子の演奏にあわせ、参列者とともにゆっくりとした足取りで、夕闇迫る笠間稲荷外苑駐車場を出発しました。門

花婿・花嫁のプロフィール

今回、主役を務めたのは、水戸市見和の鶴田岳史さんと佳葉子さん。二人は、水戸市内にある同じ会社に勤務しているのをきっかけに出会い、昨年12月31日に婚姻届を提出しました。佳葉さんが新潟県出身であることから、雪が解けはじめ暖くなる3月ごろに結婚式を挙げようと計画していましたが、東日本大震災により結婚式を断念せざるを得ませんでした。そんな時、新聞で「かさま狐の嫁入り」の記事を見て応募したそうです。



なわらい 直会での鏡開き



狐に扮しパレードを盛り上げた子どもたち



かわいらしい狐メイク

前通りでは、パレードを一目見ようとするとたくさんのお客様やカメラ・ビデオに狐の嫁入りを収めようとするとカメラマンで溢れ、パレードが到着すると二人は歓声と祝福の拍手に包まれました。

その後、二人は稲荷神社の参道を進み、神前で親戚やたくさんのお客様が見守る中、厳粛に結婚式が執り行われました。



軽快なリズムで太鼓をたたく



門前ひよいパク選手権の様子

第5回門前ひよいパク選手権

10月15日・16日の両日、笠間稲荷神社大型車お祓い所で、片手で「ひよい」とつまんで「パクツ」と食べたくなるようなご当地グルメを集め、来場者の投票で順位を決める門前ひよいパク選手権が笠間稲荷門前通り商店街協同組合の主催により開催されました。

地元笠間からは初出店の「窯焼きビザ」「中華風からあげ」のほか、笠間名物「笠間のいなり寿司」などが店を並べました。市外からは行方市の「行方バーガー」「串焼きベーコン」も参加し、合計13店舗が自慢のメニューでナンバーワンを目指しました。

笠間稲荷門前通り商店街協同組合イベント情報

門前通りの良さを多くの皆さんに再発見していただくため、20数年前大変賑わいを見せていた「門前市」を復活させました。お宝が見つかる骨董市「門前楽市」も同時開催しています。

毎月第二土曜日開催（雨天決行）午前10時～午後3時